

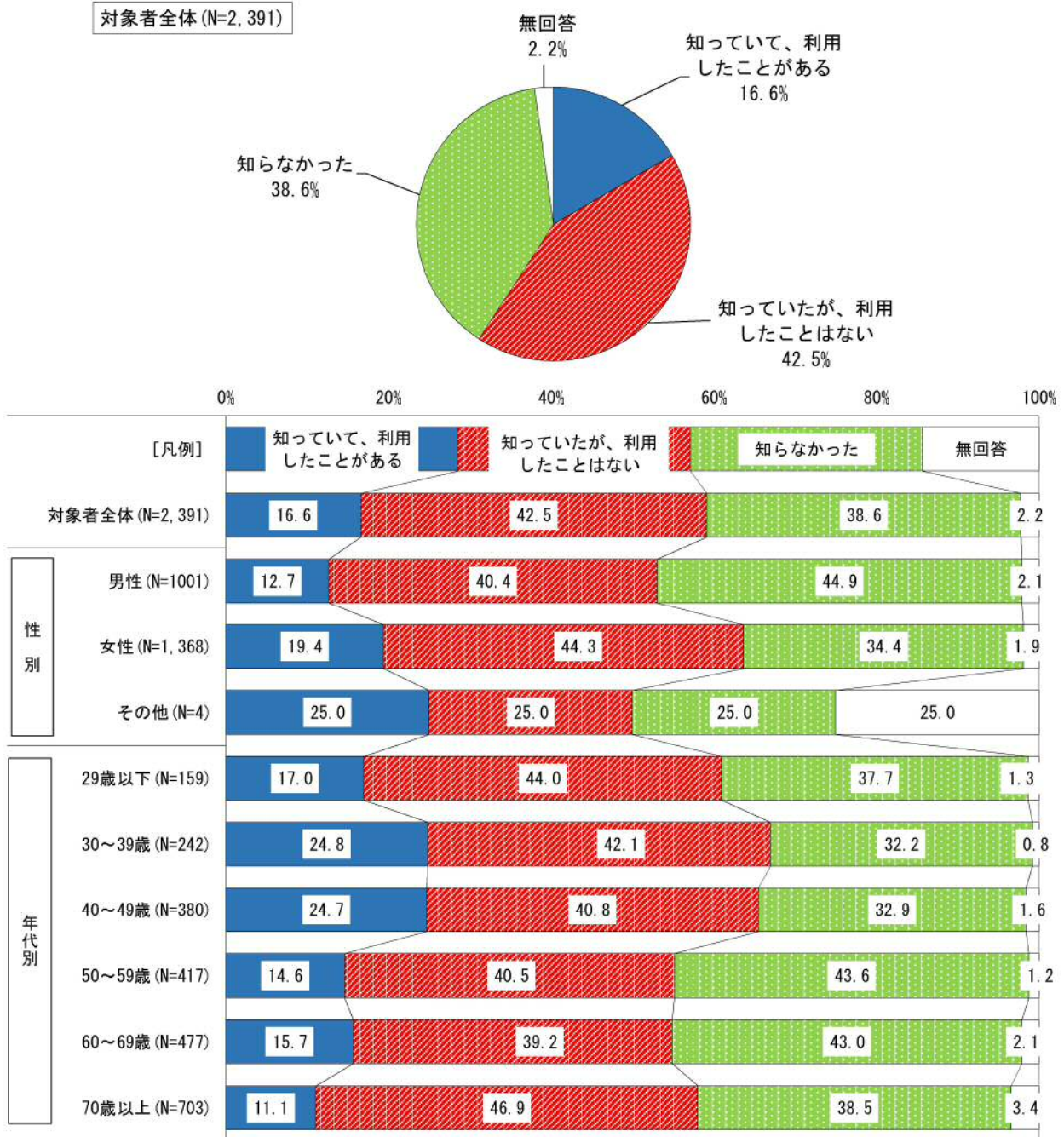
(5) 救急医療・かかりつけ医・在宅医療について

◇「救急あんしんセンターさっぽろ（#7119）」の認知度

問20 あなたは、「救急安心センターさっぽろ（#7119）」を知っていましたか。

「救急あんしんセンターさっぽろ（#7119）」を“知っていた”人が59.1%

※知っていた（「知っていて利用したことがある」＋「知っていたが、利用したことはない」）



【全体】「救急安心センターさっぽろ（#7119）」の認知度は、「知っていて、利用したことがある」が16.6%、「知っていたが、利用したことはない」が42.5%、合わせると59.1%となっている。一方、「知らなかった」が38.6%となっている。

【性別】“知っていた”は女性が63.7%と、男性の53.0%より10.7ポイント高くなっている。

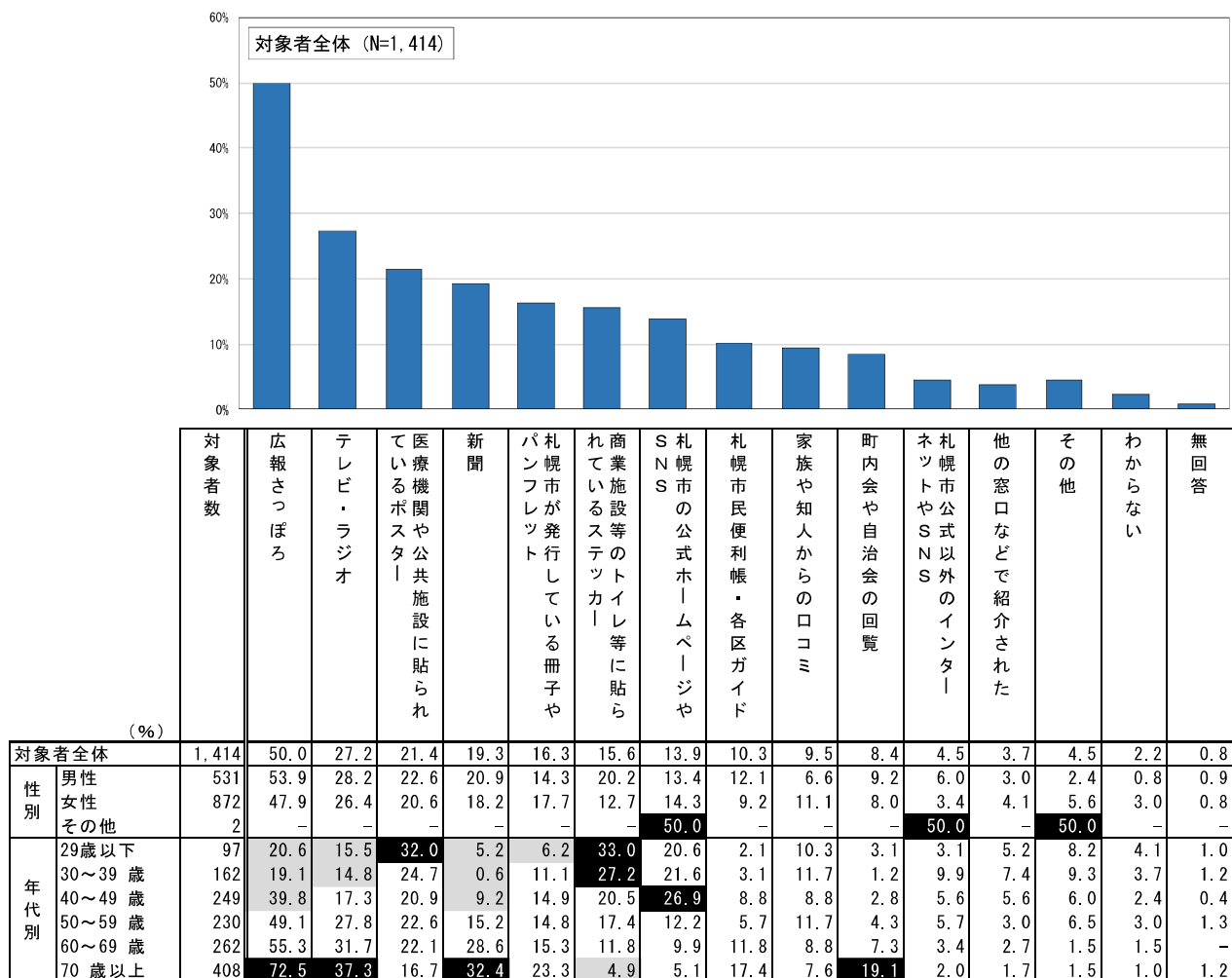
【年代別】“知っていた”が30歳代(66.9%)で最も高く、次いで40歳代(65.5%)、29歳以下(61.0%)となっている。

◇「救急あんしんセンターさっぽろ（#7119）」の認知方法

《問20で「1 知っていて、利用したことがある」または「2 知っていたが、利用したことはない」と答えた方にお聞きします。》

問20-1 あなたは、「救急安心センターさっぽろ（#7119）」をどのような方法で知りましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

「救急安心センターさっぽろ（#7119）」の認知方法は「広報さっぽろ」が50.0%



■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】「救急あんしんセンターさっぽろ（#7119）」の認知方法は、「広報さっぽろ」が50.0%、「テレビ・ラジオ」が27.2%、「医療機関や公共施設に貼られているポスター」が21.4%となっている。

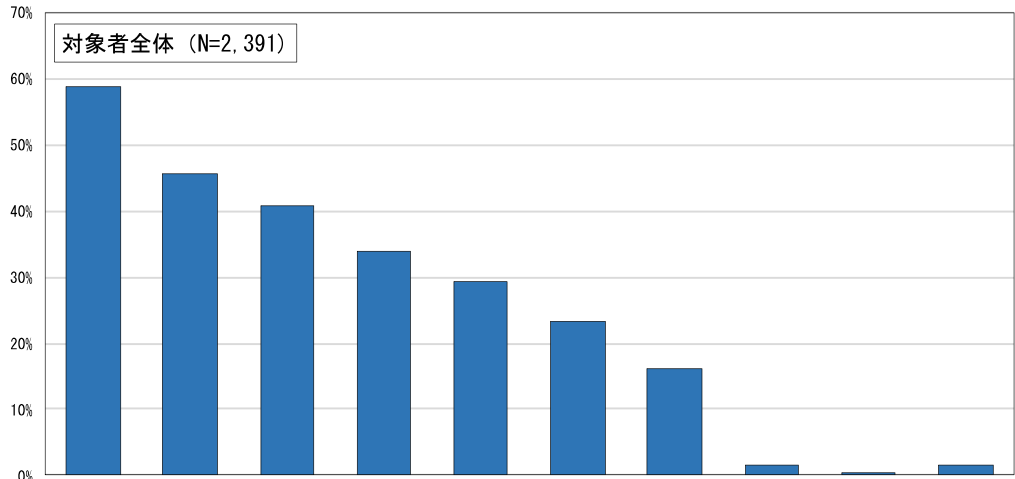
【性別】「広報さっぽろ」、「商業施設等のトイレ等に貼られているステッカー」は、男性が女性より6.0ポイント以上高くなっている。

【年代別】「広報さっぽろ」が70歳以上（72.5%）で最も高く、最も低い30歳代（19.1%）と比べると53.4ポイントの差となっている。

◇夜間・休日などに体調が悪くなった場合取る行動

問 2 1 あなたは、自分や家族が夜間・休日などに急に体調が悪くなった場合（自力で歩ける程度）、どのような行動を取りますか。あてはまると思われるものにいくつでも○をつけてください。

夜間・休日などに体調が悪くなった場合（自力で歩ける程度）に取る行動は、「そのまま様子を見る（翌日等まで待つ）」が 58.8%



対象者数		そのまま様子を見る (翌日等まで待つ)	市販薬などを服用する	札幌市夜間急病センターを受診する	インターネットや新聞で受診できる病院を調べて受診する	救急あんしんセンターさっぽろ (#7119) へ電話で相談する	救急車を呼ぶ	なかりつけ医や近所の医療機関に相談する	その他	特に何もしない	無回答
対象者全体 (N=2,391)		58.8	45.7	40.9	34.0	29.3	23.2	16.1	1.4	0.3	1.5
性別	男性 (N=1,001)	55.2	44.1	42.0	31.9	26.3	29.5	17.9	0.6	0.2	1.4
	女性 (N=1,368)	61.8	47.1	40.4	36.0	31.5	18.6	14.5	2.0	0.3	1.3
	その他 (N=4)	75.0	100.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	-	-	-
年代別	29歳以下 (N=159)	70.4	59.1	19.5	37.7	19.5	12.6	14.5	1.3	-	1.9
	30～39歳 (N=242)	71.5	57.9	36.8	42.6	24.0	16.9	12.8	2.1	0.4	-
	40～49歳 (N=380)	67.6	55.0	41.6	38.4	26.3	14.7	10.8	1.6	0.3	1.1
	50～59歳 (N=417)	63.3	54.2	42.7	41.7	24.9	17.0	12.0	1.9	0.2	1.2
	60～69歳 (N=477)	56.8	45.3	49.7	35.8	29.8	24.5	13.4	1.3	0.2	0.2
	70歳以上 (N=703)	46.7	29.2	40.1	22.5	37.1	35.3	24.3	1.0	0.3	2.8

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】夜間・休日などに体調が悪くなった場合（自力で歩ける程度）に取る行動は、「そのまま様子を見る（翌日等まで待つ）」が 58.8%、「市販薬などを服用する」が 45.7%、「札幌市夜間急病センターを受診する」が 40.9%となっている。

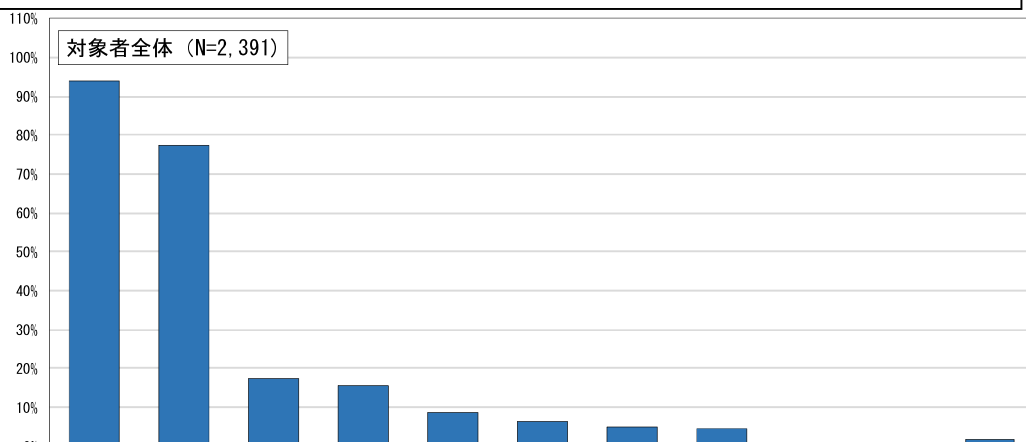
【性別】「救急車を呼ぶ」は男性が 29.5%と、女性の 18.6%より 10.9ポイント高くなっている。また、「そのまま様子を見る（翌日等まで待つ）」、「救急あんしんセンターさっぽろ（#7119）へ電話で相談する」は、女性が男性より 5.2ポイント以上高くなっている。

【年代別】「市販薬などを服用する」は、年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

◇救急車を利用する理由

問 2 2 あなたは、次のような場合に救急車を利用しますか。利用すると思われるものについて、いくつでも○をつけてください。

救急車を利用する理由は「息ができない、胸が苦しいなど、症状が重く、命の危険を感じたとき」が 93.9%



	対象者数	理由										
		息ができない、胸が苦しいなど、命の危険を感じたとき	自力では動けない、起き上がれない状態のとき	我慢できるが、強い痛みがあるとき	夜間や休日にかかりつけ医や近所の医療機関が空いていないとき	病院へ行く交通手段等がないとき	どこの病院へ行けばいいかわからないとき	症状が重いか軽いかかわからず不安を感じているとき	早く診てもらいたいとき	その他	どんな場合であっても利用しない	無回答
対象者全体	2,391	93.9	77.5	17.5	15.3	8.4	6.2	5.0	4.4	0.7	0.6	1.5
性別	男性	1,001	93.4	81.6	16.7	18.6	12.8	8.1	5.3	5.6	0.4	0.8
	女性	1,368	95.0	74.9	18.1	12.9	5.0	5.0	4.8	3.5	1.0	1.4
	その他	4	75.0	75.0	-	25.0	25.0	-	-	25.0	-	-
年代別	29歳以下	159	96.9	74.8	5.0	7.5	6.9	0.6	-	3.1	0.6	1.3
	30~39 歳	242	95.0	82.6	13.6	9.1	8.7	1.7	3.3	2.1	1.7	-
	40~49 歳	380	96.1	75.0	12.6	5.0	4.2	1.3	3.4	1.6	0.8	0.5
	50~59 歳	417	97.1	78.2	16.8	7.2	4.1	1.9	4.1	2.6	0.5	0.7
	60~69 歳	477	96.2	81.3	23.5	17.2	10.1	6.7	5.7	5.0	0.8	0.4
70 歳以上	703	89.2	75.2	20.6	28.6	12.2	14.1	7.7	7.8	0.4	0.9	2.8

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】救急車を利用する理由は、「息ができない、胸が苦しいなど、症状が重く、命の危険を感じたとき」が 93.9%、「自力では動けない、起き上がれない状態のとき」が 77.5%、「我慢できるが、強い痛みがあるとき」が 17.5%となっている。

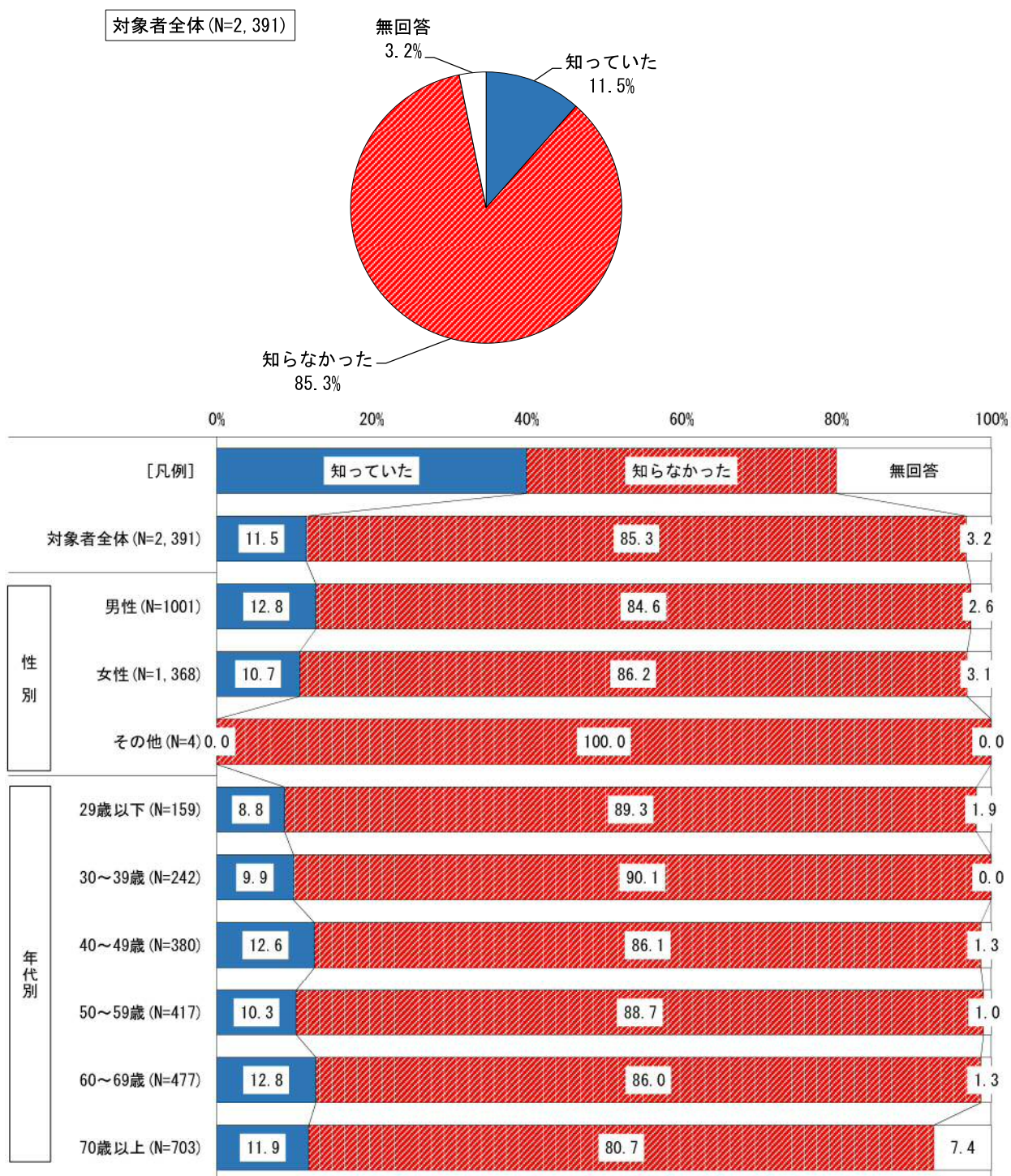
【性別】「自力では動けない、起き上がれない状態のとき」、「夜間や休日にかかりつけ医や近所の医療機関が空いていないとき」、「病院へ行く交通手段等がないとき」は、男性が女性より 5.7 ポイント以上高くなっている。

【年代別】「夜間や休日にかかりつけ医や近所の医療機関が空いていないとき」が 70 歳以上 (28.6%) で最も高く、最も低い 40 歳代 (5.0%) と比べると 23.6 ポイントの差となっている。

◇災害発生時に受診可能な医療機関をホームページで発信していることの認知度

問 2 3 あなたは、札幌市が災害発生時に、その時点で受診可能な医療機関をホームページ等で発信していることを知っていましたか。

災害発生時に受診可能な医療機関をホームページで発信していることを「知っていた」人は11.5%



【全 体】災害発生時に受診可能な医療機関をホームページで発信していることの認知度は、「知っていた」が11.5%、「知らなかった」が85.3%となっている。

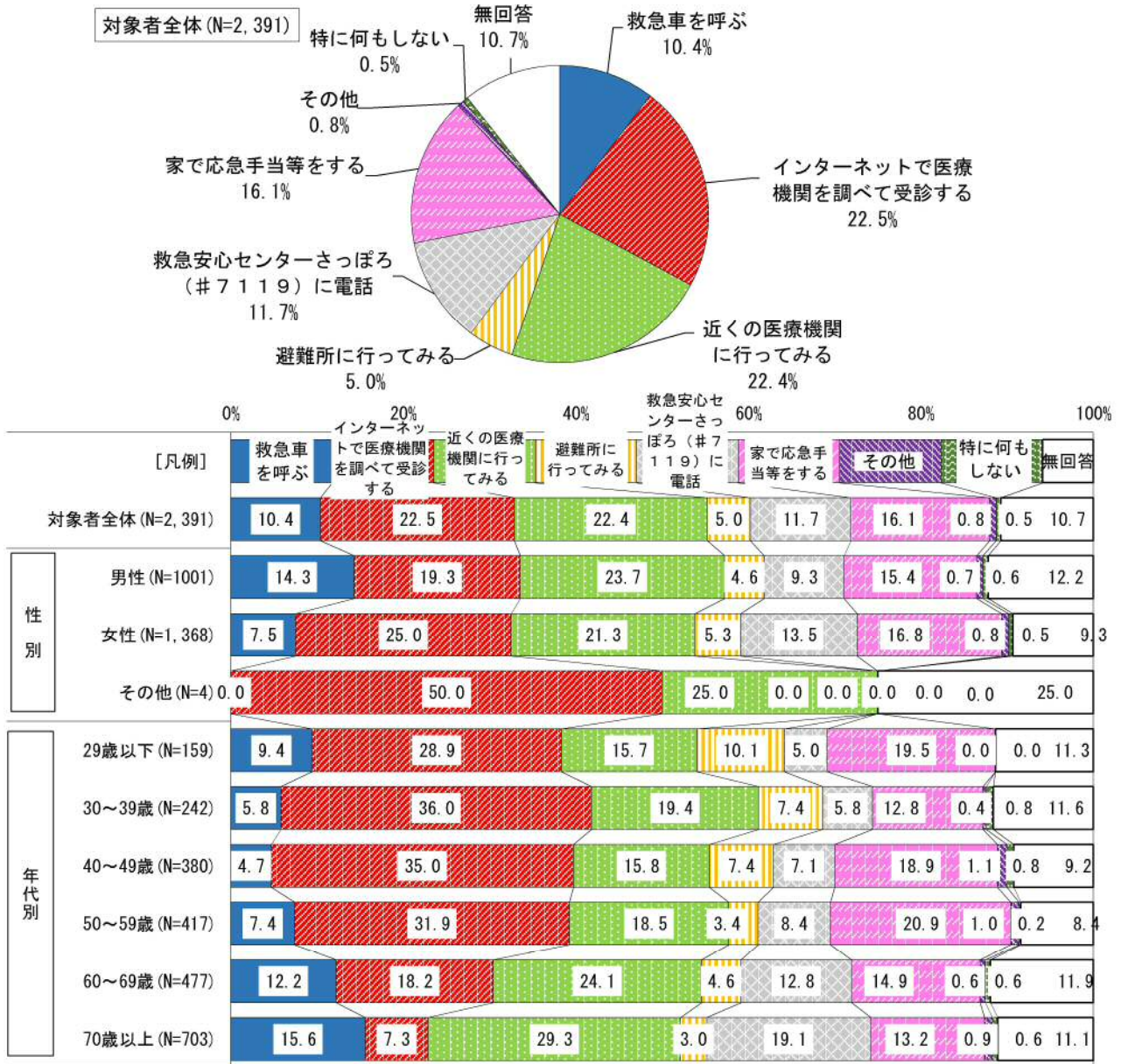
【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「知っていた」が60歳代(12.8%)で最も高く、次いで40歳代(12.6%)、70歳以上(11.9%)となっている。

◇災害発生時にけがをした場合にする行動

問 2 4 あなたは、災害発生時に、けが（骨折や打撲、出血があるが自力で歩ける程度）をした場合、どのような行動を取りますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

災害発生時にけがをした場合にする行動は、「インターネットで医療機関を調べて受診する」が22.5%



【全体】 災害発生時にけがをした場合にする行動は、「救急車を呼ぶ」が10.4%、「インターネットで医療機関を調べて受診する」が22.5%、「近くの医療機関に行ってみる」が22.4%、「避難所に行ってみる」が5.0%、「救急安心センターさっぽろ (#7119) に電話」が11.7%、「家で応急手当等をする」が16.1%となっている。

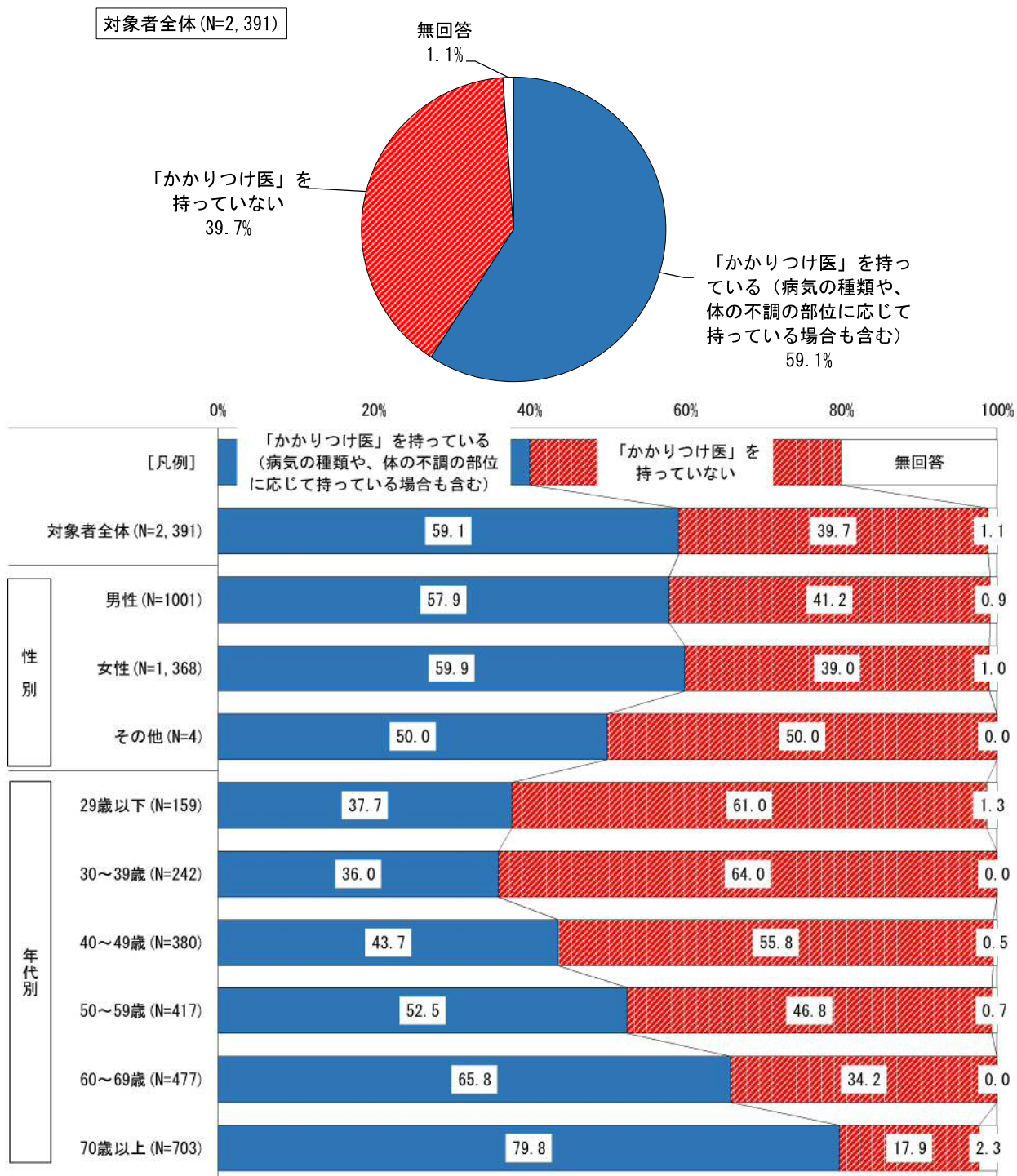
【性別】 「救急車を呼ぶ」は男性が14.3%と、女性の7.5%より6.8ポイント高くなっている。また、「インターネットで医療機関を調べて受診する」は女性が25.0%と、男性の19.3%より5.7ポイント高くなっている。

【年代別】 59歳以下では「インターネットで医療機関を調べて受診する」が、60歳以上では「近くの医療機関に行ってみる」が最も高くなっている。

◇「かかりつけ医」の有無

問25 あなたは、「かかりつけ医（歯科医を除く）」を持っていますか。

「かかりつけ医を持っている」人は59.1%



【全体】「かかりつけ医（歯科医を除く）」の有無は、「かかりつけ医」を持っている（病気の種類や、体の不調の部位に応じて持っている場合も含む）が59.1%、「かかりつけ医」を持っていないが39.7%となっている。

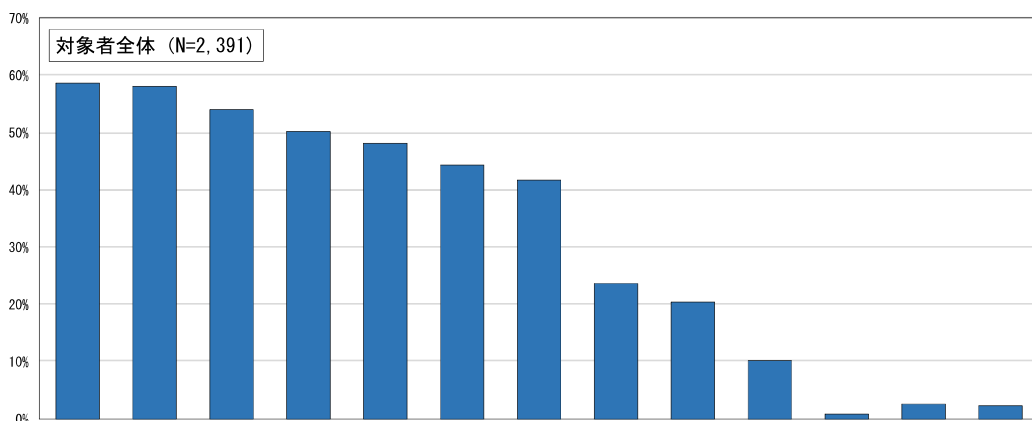
【性別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「かかりつけ医」を持っているが70歳代(79.8%)で最も高く、最も低い30歳代(36.0%)と比べると43.8ポイントの差となっている。

◇「かかりつけ医」に期待すること

問26 あなたが、「かかりつけ医」に期待することは何ですか。あてはまるものいくつでも○をつけてください。

「かかりつけ医」に期待することは「病気や治療についてよく説明してくれる」と回答した人が58.6%



対象者数	病気や治療についてよく説明してくれる	体の不調を感じたときに診てくれる	自分の病状を把握している	自宅や職場から近く通院しやすい	健康相談に乗ってくれる	大病院や市立病院など適切な病院を紹介してくれる	患者の話をよく聞いてくれる	設備がそろっている	待ち時間が短い	自力で通院できないときに、往診してくれる	その他	特にない	無回答
対象者全体 (N=2,391)	58.6	58.0	54.1	50.1	48.1	44.4	41.7	23.7	20.5	10.2	0.8	2.6	2.3
性別													
男性	52.6	53.0	52.1	45.4	49.6	42.7	34.5	22.3	18.1	9.3	0.6	3.4	2.9
女性	63.2	61.6	55.7	53.5	47.2	45.9	47.0	24.8	21.9	10.8	1.0	2.0	1.6
その他	75.0	100.0	75.0	25.0	50.0	75.0	50.0	25.0	25.0	-	-	-	-
年代別													
29歳以下	55.3	64.2	53.5	52.8	50.9	28.3	44.0	27.7	21.4	8.2	2.5	3.8	1.3
30～39歳	63.2	68.6	60.3	59.1	52.1	47.5	47.5	30.2	22.3	7.9	-	3.7	0.4
40～49歳	59.5	60.0	58.2	52.9	40.0	43.9	41.3	22.9	22.1	7.4	0.8	1.8	2.4
50～59歳	62.6	61.2	54.0	53.0	46.0	45.1	42.9	25.2	24.0	11.0	1.7	2.6	1.0
60～69歳	60.8	58.7	55.8	50.9	50.5	48.4	41.9	22.6	20.1	13.2	0.8	2.3	1.0
70歳以上	53.9	49.8	49.2	42.7	50.2	44.5	38.5	20.8	16.5	10.4	0.3	2.4	4.3

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】「かかりつけ医」に期待することは、「病気や治療についてよく説明してくれる」が58.6%、「体の不調を感じたときに診てくれる」が58.0%、「自分の症状を把握している」が54.1%となっている。

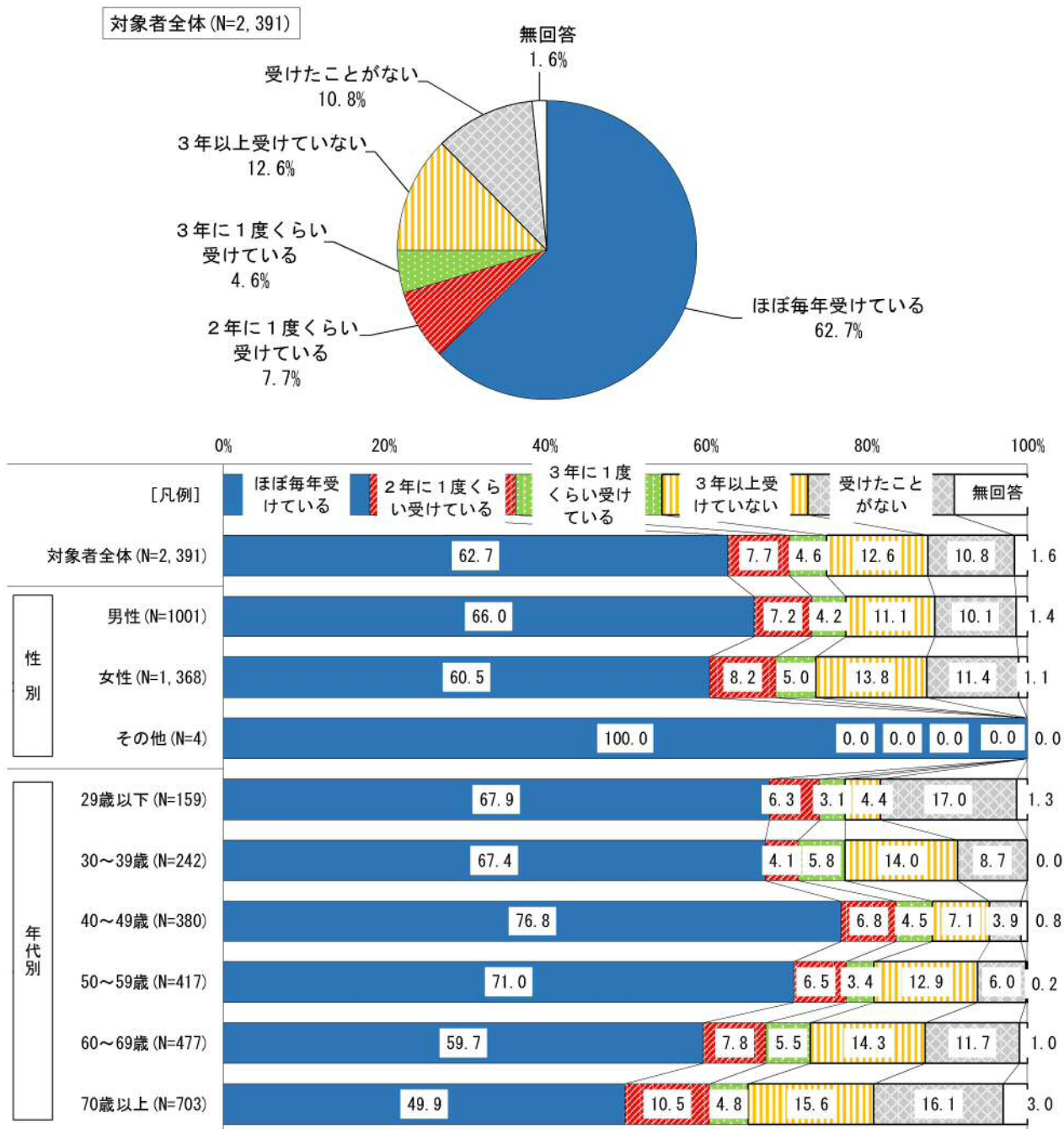
【性別】「病気や治療についてよく説明してくれる」、「体の不調を感じたときに診てくれる」、「自宅や職場から近く通院しやすい」、「患者の話をよく聞いてくれる」は、女性が男性より8.1ポイント以上高くなっている。

【年代別】「体の不調を感じたときに診てくれる」が30歳代(68.6%)で最も高く、次いで29歳以下(64.2%)、50歳代(61.2%)となっている。

◇「健康診断等」の受診状況

問27 あなたは、何年ごとに「健康診断等」を受けていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

「健康診断等」を「ほぼ毎年受けている」人は62.7%



【全体】「健康診断等」の受診状況は、「ほぼ毎年受けている」が62.7%、「2年に1度くらい受けている」が7.7%、「3年に1度くらい受けている」が4.6%となっている。一方、「3年以上受けていない」が12.6%、「受けたことがない」が10.8%となっている。

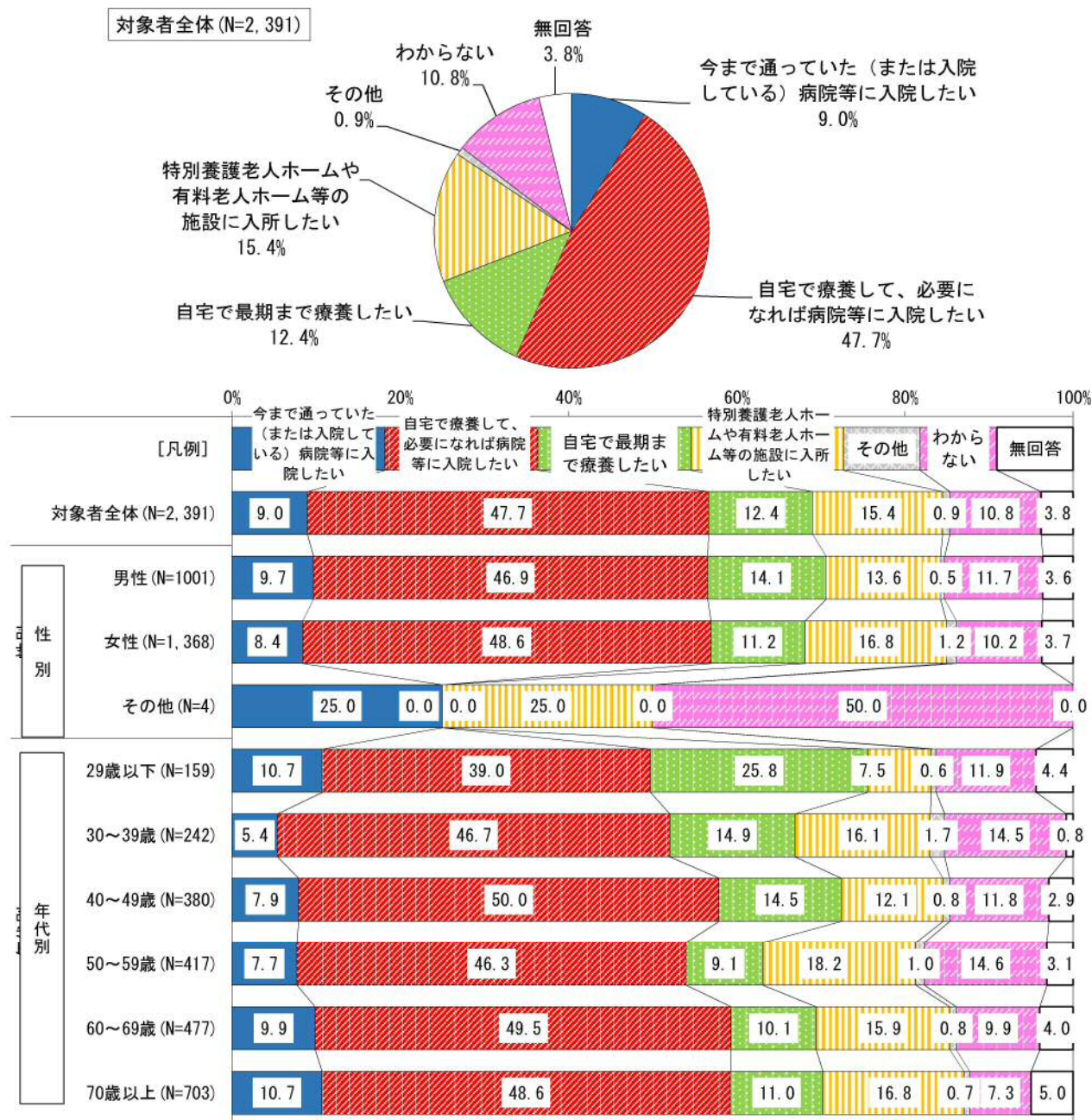
【性別】「ほぼ毎年受けている」は男性が66.0%と、女性の60.5%より5.5ポイント高くなっている。

【年代別】「ほぼ毎年受けている」が40歳代(76.8%)で最も高く、最も低い70歳以上(49.9%)と比べると26.9ポイントの差となっている。

◇人生最期のときの過ごし方

問28 あなたは、高齢や病気などが理由で通院することが困難となった場合に、人生の最期のときをどのように過ごしたいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

人生の最期のときの過ごし方は「自宅で療養して、必要になれば病院等に入院したい」と回答した人が47.7%



【全体】人生最期のときの過ごし方は、「今まで通っていた（または入院している）病院等に入院したい」が9.0%、「自宅で療養して、必要になれば病院等に入院したい」が47.7%、「自宅で最期まで療養したい」が12.4%、「特別養護老人ホームや有料老人ホーム等の施設に入所したい」が15.4%となっている。

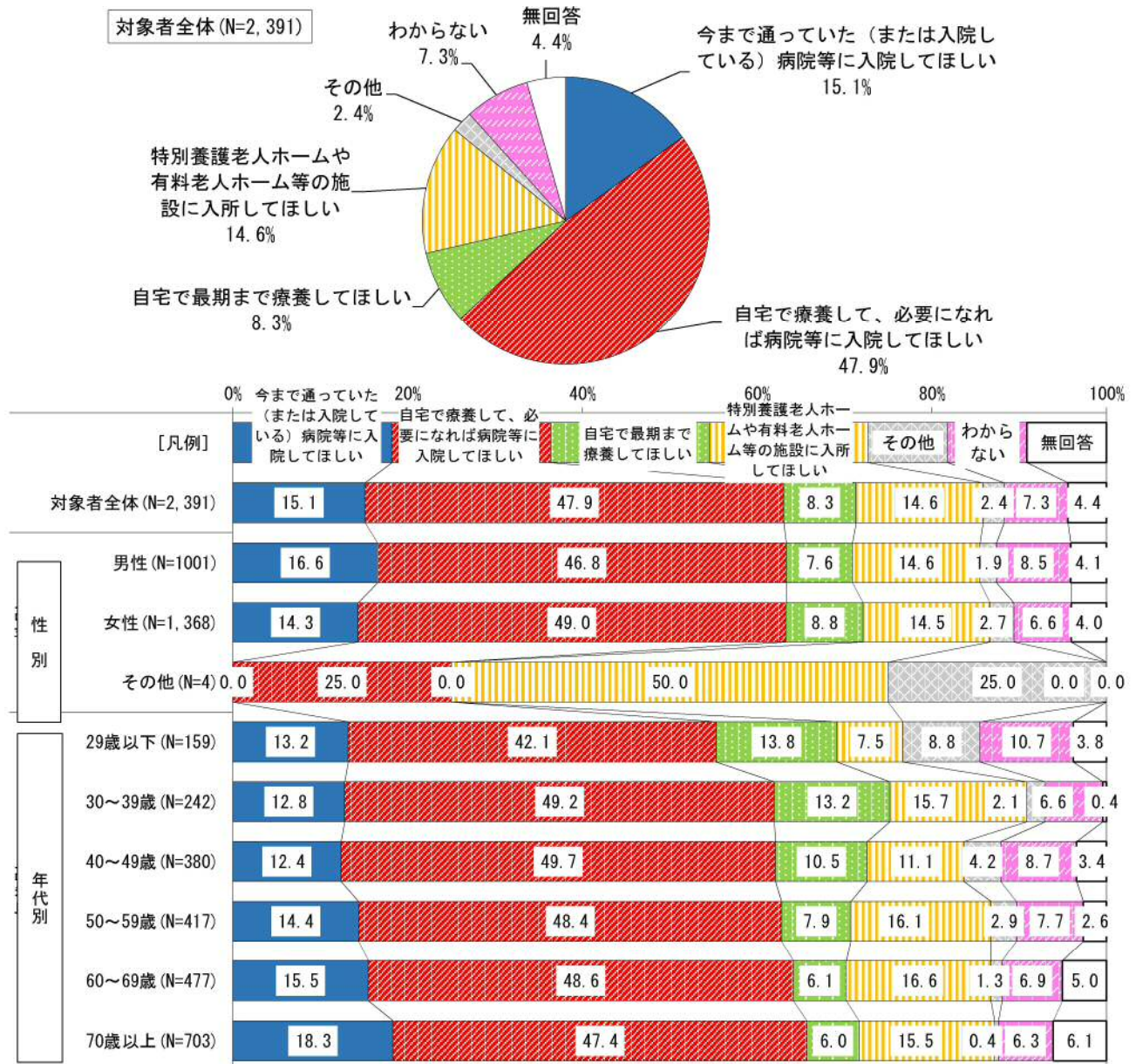
【性別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「自宅で療養して、必要になれば病院等に入院したい」が40歳代（50.0%）で最も高く、次いで60歳代（49.5%）、70歳以上（48.6%）となっている。

◇同居している身近な人に人生の最期のときをどのように過ごしてほしいか

問 2 9 あなたは、あなたと同居している身近な人が、高齢や病気などが理由で通院することが困難となった場合に、人生の最期のときをどのように過ごしてほしいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。なお、同居している方がいない場合は、いることを想定して回答してください。

同居している身近な人に人生の最期のときをどのように過ごしてほしいかは「自宅で療養して、必要になれば病院等に入院してほしい」と回答した人が47.9%



【全体】身近な人に人生の最期のときをどのように過ごしてほしいかは、「今まで通っていた（または入院している）病院等に入院してほしい」が15.1%、「自宅で療養して、必要になれば病院等に入院してほしい」が47.9%、「自宅で最期まで療養してほしい」が8.3%、「特別養護老人ホームや有料老人ホーム等の施設に入所してほしい」が14.6%となっている。

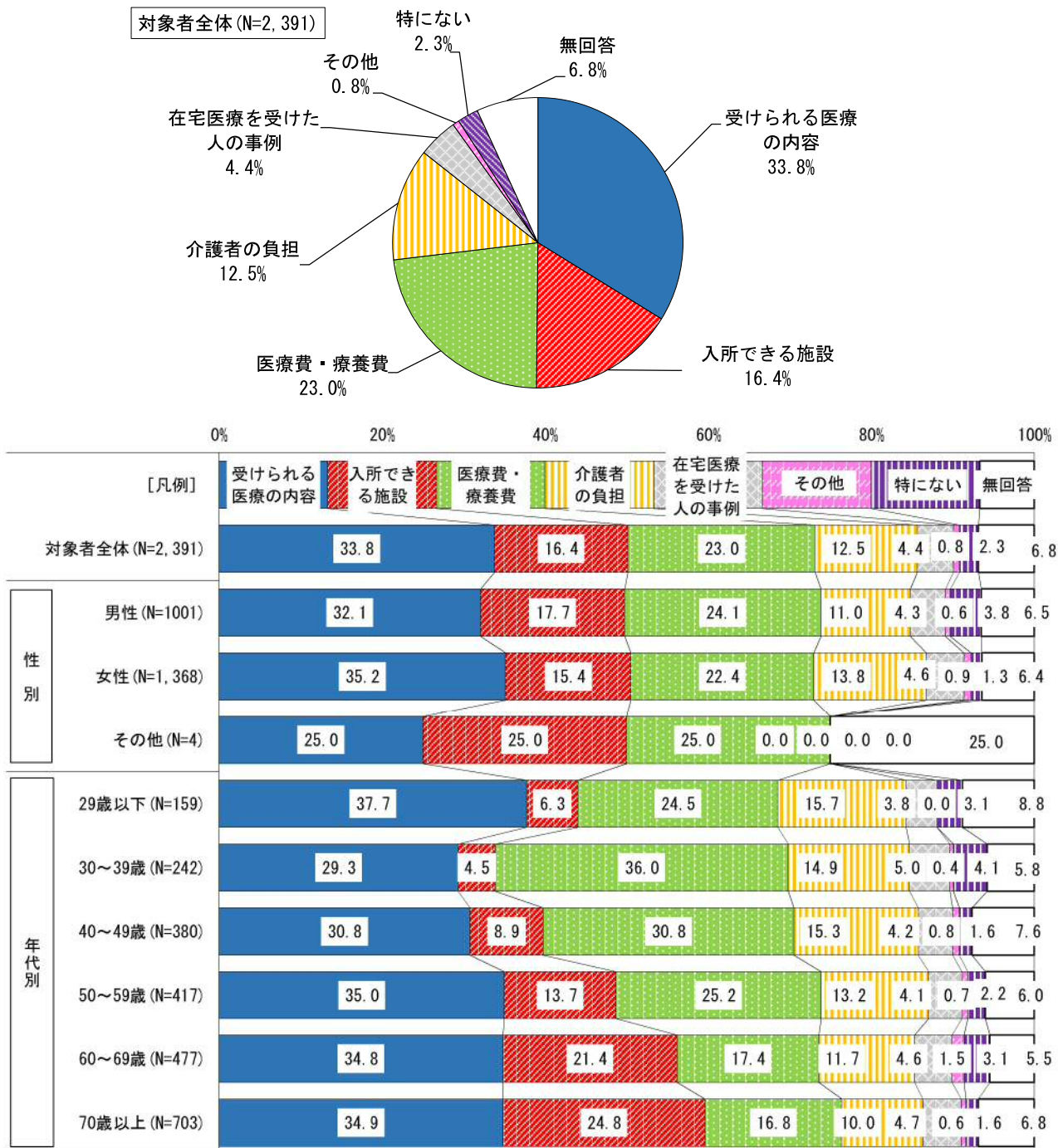
【性別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「自宅で最期まで療養してほしい」が30歳代（13.2%）で最も高く、最も低い70歳以上（6.0%）と比べると7.2ポイントの差となっている。

◇在宅医療を利用する際に知りたい情報

問30 あなたは、高齢や病気などが理由で通院することが困難となった際に、仮に在宅医療を利用するとした場合、特にどのような情報を知りたいですか。あてはまるものに1つだけ ○をつけてください。

在宅医療を利用する際に知りたい情報は「受けられる医療の内容」と回答した人が33.8%



【全体】在宅医療を利用する際に知りたい情報は、「受けられる医療の内容」が33.8%、「医療費・療養費」が23.0%、「入所できる施設」が16.4%となっている。

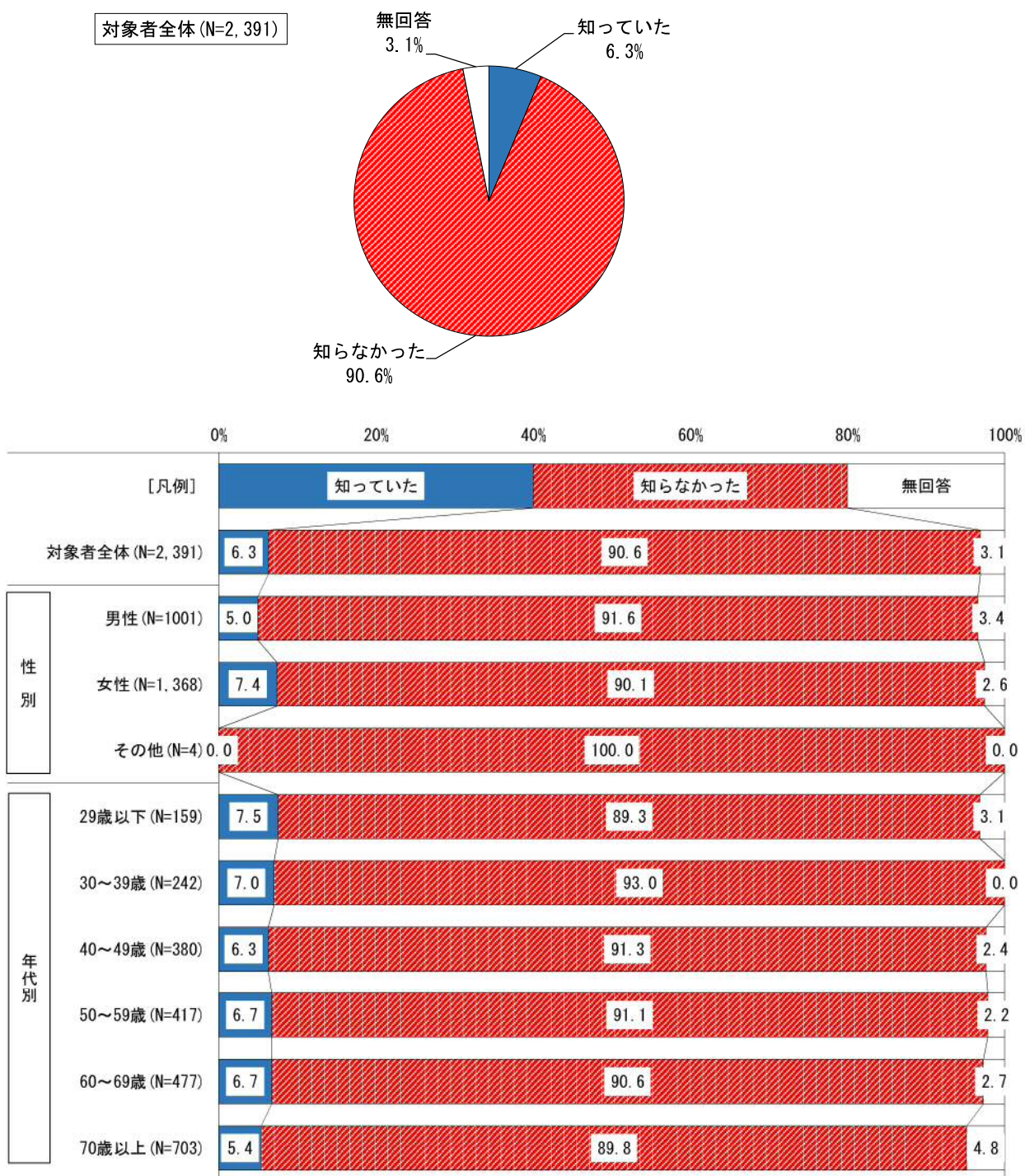
【性別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「受けられる医療の内容」が29歳以下(37.7%)で最も高く、次いで50歳代(35.0%)、70歳以上(34.9%)となっている。

◇「ACP」や「人生会議」の認知度

問31 あなたは、「ACP」や「人生会議」という言葉を知っていましたか。

「ACP」や「人生会議」という言葉を「知っていた」人は6.3%



【全体】「ACP」や「人生会議」の認知度は、「知っていた」が6.3%、「知らなかった」が90.6%となっている。

【性別】男女で大きな差は見られない。

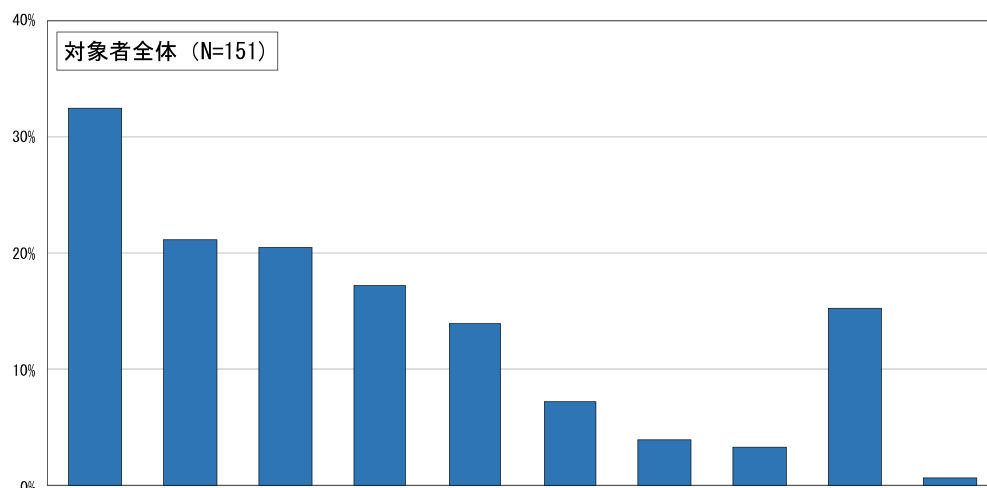
【年代別】「知っていた」が29歳以下（7.5%）で最も高く、次いで30歳代（7.0%）、50歳代、60歳代（6.7%）となっている。

◇「ACP」や「人生会議」を知ったきっかけ

《問31で「1 知っていた」と答えた方にお聞きします。》

問31-1 あなたは、「ACP」や「人生会議」をどのような方法で知りましたか。あてはまるものにくつでも○をつけてください。

「ACP」や「人生会議」を知ったきっかけは「テレビ・ラジオ」が32.5%



対象者数		テレビ・ラジオ	新聞	医療機関で教えてもらった	研修会・講演会等	札幌市が発行している冊子	札幌市公式以外のインターネット	札幌市以外が発行している冊子	札幌市の公式ホームページ	その他	無回答
(%)											
対象者全体	151	32.5	21.2	20.5	17.2	13.9	7.3	4.0	3.3	15.2	0.7
性別	男性	50	32.0	20.0	24.0	24.0	8.0	8.0	8.0	6.0	-
	女性	101	32.7	21.8	18.8	15.8	8.9	6.9	2.0	19.8	1.0
	その他	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別	29歳以下	12	8.3	8.3	8.3	16.7	-	8.3	-	50.0	-
	30～39歳	17	11.8	5.9	23.5	29.4	-	17.6	-	23.5	-
	40～49歳	24	33.3	-	25.0	25.0	8.3	12.5	8.3	20.8	-
	50～59歳	28	39.3	17.9	10.7	10.7	14.3	7.1	3.6	17.9	-
	60～69歳	32	37.5	28.1	18.8	15.6	21.9	3.1	6.3	9.4	-
	70歳以上	38	39.5	42.1	28.9	13.2	21.1	2.6	2.6	5.3	7.9

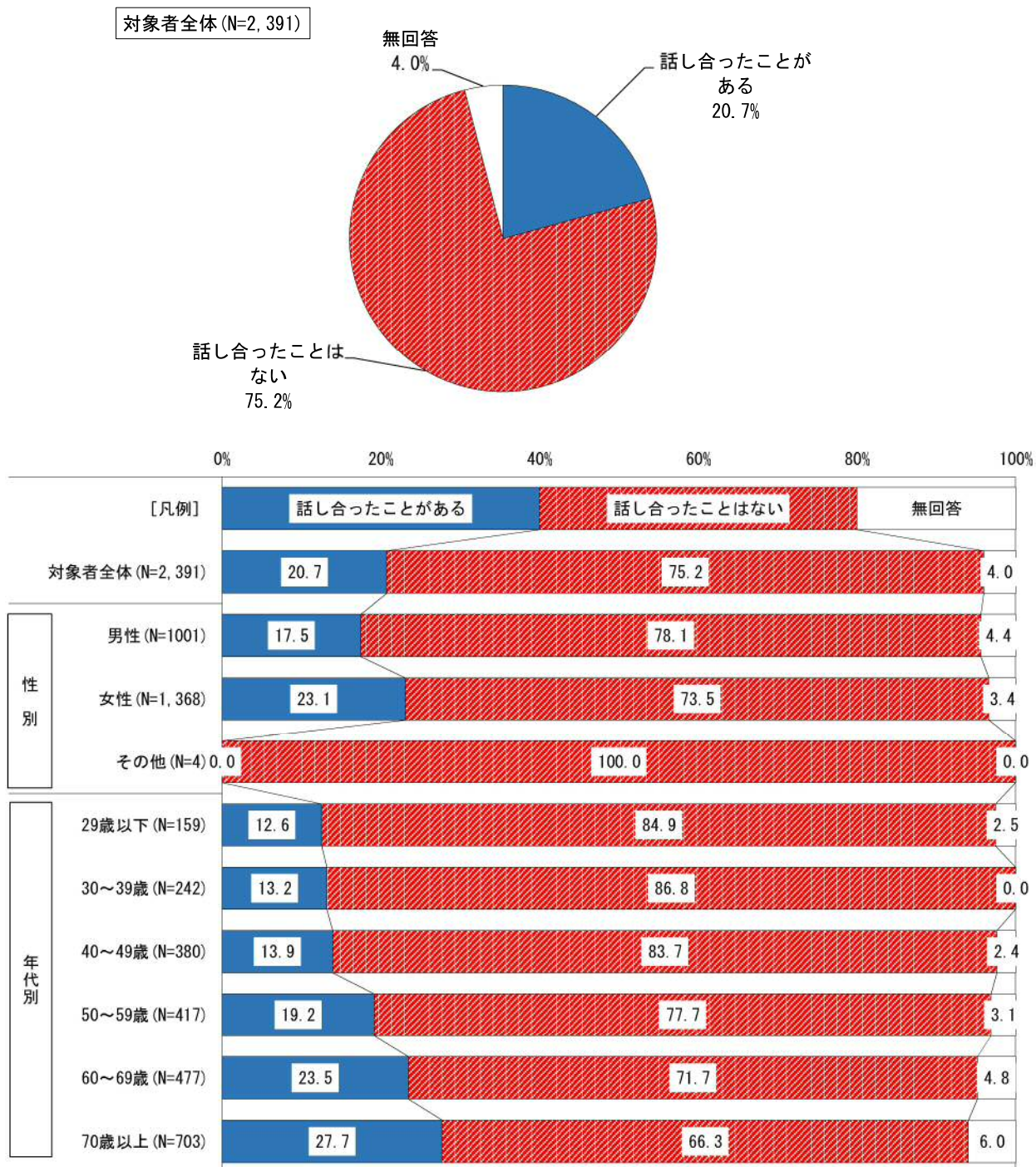
■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】「ACP」や「人生会議」を知ったきっかけは、「テレビ・ラジオ」が32.5%、「新聞」が21.2%、「医療機関で教えてもらった」が20.5%となっている。

◇人生の最期に希望する医療やケアの話し合いの有無

問32 あなたは、人生の最期のときに望む医療やケアについて、家族や医療関係者と話し合ったことはありますか。

人生の最期に希望する医療やケアの話し合いの有無は「話し合ったことがある」人が20.7%



【全体】人生の最期に希望する医療やケアの話し合いの有無は、「話し合ったことがある」が20.7%、「話し合ったことはない」が75.2%となっている。

【性別】「話し合ったことがある」は女性が23.1%と、男性の17.5%より5.6ポイント高くなっている。

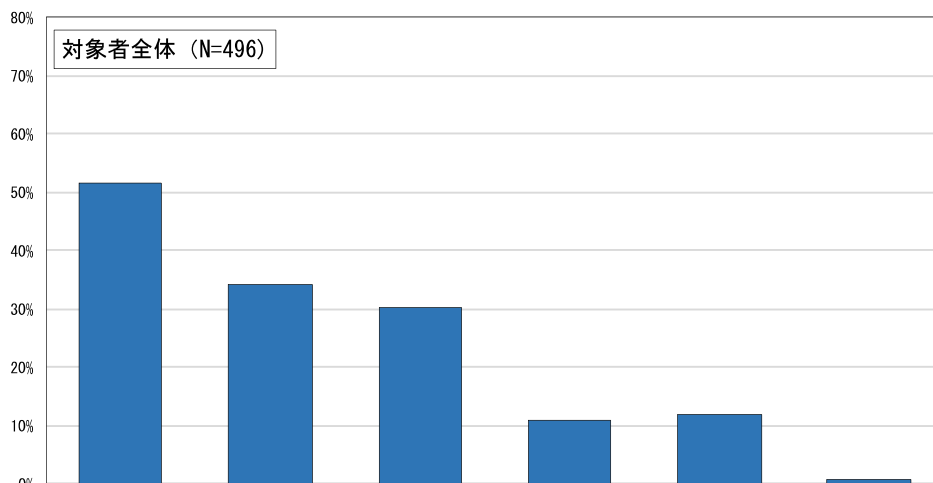
【年代別】「話し合ったことがある」は、年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

◇人生最期の医療やケアについて話し合う場面

《問32で「1 話し合ったことがある」と答えた方にお聞きします。》

問32-1 あなたは、人生の最期のときの医療やケアについて、どのような時に家族や医療関係者と話し合っていますか。あてはまるものはいくつでも○をつけてください。

人生の最期のときの医療やケアについての話し合いは「体調や病状に変化があったとき」と回答した人が51.4%



対象者数		対象者数	体調や病状に変化があったとき	病気やけがで入院したとき	定期的に話し合っている	人間関係に変化があったとき	その他	無回答
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
対象者全体		496	51.4	34.1	30.2	10.7	11.9	0.6
性別	男性	175	57.7	35.4	24.0	9.1	10.3	0.6
	女性	316	47.5	33.5	33.9	11.4	13.0	0.6
	その他	0	-	-	-	-	-	-
年代別	29歳以下	20	30.0	30.0	45.0	15.0	20.0	-
	30～39歳	32	43.8	37.5	28.1	18.8	6.3	3.1
	40～49歳	53	45.3	35.8	35.8	17.0	13.2	-
	50～59歳	80	42.5	25.0	45.0	12.5	13.8	1.3
	60～69歳	112	54.5	37.5	29.5	9.8	10.7	-
	70歳以上	195	57.9	35.4	22.1	7.2	11.8	0.5

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】人生最期の医療やケアについて話し合う場面は、「体調や病状に変化があったとき」が51.4%、「病気やけがで入院したとき」が34.1%、「定期的に話し合っている」が30.2%となっている。

【性別】「体調や病状に変化があったとき」は男性が57.7%と、女性の47.5%より10.2ポイント高くなっている。また、「定期的に話し合っている」は女性が33.9%と、男性の24.0%より9.9ポイント高くなっている。

【年代別】「体調や病状に変化があったとき」は、70歳以上(57.9%)で最も高く、最も低い29歳以下(30.0%)と比べると27.9ポイントの差となっている。